

病院指標の「集計の定義（条件）の詳細」

- ◆患者数：一連の入院を1患者としてカウント（他病棟との間で何度転棟・転入しても1カウント）。
10未満の数値は、「一」（ハイフン）を記入。
- ◆在院日数：入院日から退院日までの日数（主たる入院診療科でカウントし、一症例を複数の診療科でダブルカウントしない）。
- ◆年齢：入院時の満年齢
- ◆DPCコード（診断群分類番号）：
入院中に行われた治療行為の中で、医療資源を最も投入した傷病名に手術・処置の有無を組み合わせた14桁のコード。

1. 年齢階級別退院患者数

- 年齢階級別（10歳刻み）の患者数。
- 年齢階級は90歳以上を1つの階級として設定。

2. 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

- 各診療科別に患者数の多い順にDPC14桁分類について、DPCコード、名称、患者数、自院の平均在院日数、全国の平均在院日数、転院率、平均年齢、患者用パスを掲載。
- 診療科名は当院の標榜診療科とし、医療資源を最も投入した傷病の診療担当医師の所属する科で集計。
- 「転院率」については、退院先が「他の病院・診療所への転院」の患者をカウントし、転院患者数／全退院数とする。

3. 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

- 5大癌について初発患者はUICCのTNMから示される病期分類による延患者数を、再発患者（再発部位によらない）は期間内の延患者数を集計。
- Stage I～IVまでの患者集計し、Stageが「0」のものは対象外。
- TNM分類が不正確等で病期（Stage）が不明な場合は、「不明」としてカウント。
- 各癌について、Stageの判定にはUICC病期分類第7版を使用。

4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等

- 市中肺炎とは、病院外で普段の日常生活をしていた人に発症した肺炎をいう。
- 重症度別に患者数、平均在院日数、平均年齢を掲載。
- 重症度分類はA-DROPスコアを用い、軽症～超重症の4段階で標記。重症度分類の各因子が一つでも不明な場合は「不明」と分類。

◆A-DROPスコアとは

日本呼吸器学会の成人市中肺炎診療ガイドラインに掲載されている肺炎重症度分類の定義。

- ① Age（年齢）男子 70 歳以上、女性 75 歳以上
 - ② Dehydration（脱水）BUN \geq 21 mg/dL 以上または脱水あり
 - ③ Respiration SpO $_2$ \leq 90%（PaO $_2$ 60Torr 以下）
 - ④ Orientation（意識障害）意識障害あり
 - ⑤ Pressure（収縮期血圧）収縮期血圧 90mmHg 以下
- ※5 点満点で、1 項目該当すれば 1 点、2 項目該当すれば 2 点。

◆重症度分類

軽 症：0 点の場合。

中等症：1～2 点の場合。

重 症：3 点の場合。ただし、意識障害（ショック）であれば 1 点でも重症とする。

超重症：4～5 点の場合。

不 明：重症度分類の各因子が 1 つでも不明な場合。

5. 脳梗塞の ICD10 別患者数等

- 脳梗塞の病型別の患者数、平均在院日数、平均年齢、転院率を示す。
- 最も医療資源を投入した傷病の ICD10（G45\$,G46\$,I63\$,I65\$,I66\$,I675,I679）別に集計。
- 発症日から「3 日以内」「その他」に分けた数値を記載。発症日から「3 日以内」「その他」に分けて 10 未満になることが多い場合は、分けずに合計した数値を記載。
- 「転院率」については、退院先が「他の病院・診療所への転院」の患者をカウントし、転院患者数/全退院数とする。

6. 診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位 5 位まで）

- 診療科別に手術件数の多い順に上位 5 術式について、患者数、平均術前日数、平均術後日数、転院率、平均年齢、患者用パスを掲載。
- 入院中に行った手術の中で、主たる手術のみをカウント。
- 輸血関連（K920\$）、創傷処理、皮膚切開術、非観血的整復術、徒手整復術、軽微な手術、およびすべての加算は除外。
- 術前日数は入院日から主たる手術の手術日までの日数。（手術日当日は含まない）
- 術後日数は主たる手術の手術日から退院日までの日数。（手術日当日は含まない）
- 「転院率」については、退院先が「他の病院・診療所への転院」の患者をカウントし、転院患者数/全退院数とする。

7) その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

- 医療資源を最も投入した傷病名が播種性血管内凝固症候群（DIC）、敗血症、その他の真菌症、手術・処置等の合併症について、入院の契機となった傷病名の同一性の有無を区別して症例数をカウントする。
- 同一性とは、上記 4 つの医療資源を最も投入した傷病名に対する ICD10 コードと、入院の契機となった傷病名に対する ICD10 コードに該当している場合に「同一」とする。
- 同一性の有無を区別した各症例数の、全退院患者数に対する発生率を示す。